

テーマ名

子どものパワーで商店街活性化

～1日限定のこどもが主役のまち「こどもっちゃ！商店街」～

氏名：上野 貴史（うえの たかし）

勤務先：周南市役所 中心市街地整備課

職位：係長（周南市中心市街地活性化協議会へ派遣）

関係する組織名：こどもっちゃ！商店街実行委員会

(要 旨)

高度成長期に山口県内屈指の商業集積地として発展してきた周南市（旧徳山市）の商店街は、全国の多くの地方都市同様、空き店舗の増加、商店主・来街者の高齢化等の問題を抱えている。その活性化が長年の懸案事項となっており、商店街のみならず、市や徳山商工会議所、各種市民団体等もさまざまな活性化策を講じてきた。

本レポートで取り上げる、子どもの職業体験イベント「こどもっちゃ！商店街」は、商店街が買い物の場である以外に、子どもにとって“生きた教育の場”であることに着目し、子どもと大人がお互いの姿から学び合う「教育（共育）」の力で、心に火を付け、活性化の火種にできないか、と市民・商店街・市等が実行委員会を設置して始めた取組みである。

本レポートは、第1回開催までの紆余曲折の経緯、そしてその後の展開を中心にまとめたものである。

目 次

1日限定のこどもが主役のまち	71
「こどもっちゃ！商店街」とは	71
商店街の変遷	72
逆発想から生まれた「こどもっちゃ！商店街」	72
“実行”する実行委員会を	73
混沌を経て「こどもっちゃ！商店街」へ	74
貴重だったお母さん方の意見	74
いよいよ当日	75
進化し続ける「こどもっちゃ！商店街」	77
子どもの笑顔と未来のために	78

1日限定のこどもが主役のまち

「いらっしゃいませ〜。」「ありがとうございます！」。

商店街に子どもたち（小学生）の元気な声が響く。

商店街のお店で、呼び込みをする子、接客や販売をする子、商品の陳列や整理をする子、掃除をする子、…。歩行者天国となった道路上やアーケード下などで、模擬現金輸送をする子、マニキュアを塗ってあげている子、大工さんから木工を仕込まれている子、車磨きをする子、結婚式の司会や演出をする子、ラジオ局やテレビ局の仕事を体験する子、ダンスやマジックなどを習得してステージで披露する子、…。

子どもと一緒に働いているのは、その仕事を生業としているプロの大人たちである。

今日は11月23日、勤労感謝の日。徳山商店街が1日限定でこどもが主役のまちに変身する「こどもっちゃ！商店街」の日だ。

「こどもっちゃ！商店街」とは

「こどもっちゃ！商店街」は、

- ・子どもたちが「働く楽しさ・喜び」を体感し、労働観・職業観形成の一助とする。
 - ・“ホンモノ”に触れることで、子どもたちの「夢を具体化し、挑戦する力」を育む。
 - ・子どもや保護者、中高生の来街を促し、来街層の若年化のきっかけとする。
- ことを目的とした子どもの職業体験イベントで、主な流れは次のとおりである。

① こどもっちゃ！ハローワークでお仕事を見つける。

お仕事ボードに1日分のお仕事カード（求人票）が掲出される。希望するお仕事に就こうと、毎回朝早くから長蛇の列ができる。

お仕事を選んだら、参加費500円を支払う。

② 朝礼に参加して、引率してもらってお仕事場へ。

お仕事場に行く前に、同じ時間帯に働く子どもが一堂に会し、朝礼を行う。注意事項を聴いたり、あいさつの練習をしたりして、お仕事に就く態勢をつくる。

それが終わると、迷子にならないよう、それぞれのお仕事場まで中高生～青年のボランティアが引率する。

③ それぞれのお仕事場で働く。

40～50分（一部1時間超のお仕事あり）働く。終了時間になったら、中高生～青年のボランティアがお仕事場に迎えに行き、こどもっちゃ！銀行まで引率

して帰る。

④ こどもっちゃ！銀行で、アルバイト代をもらう。

こどもっちゃ！銀行でアンケートを記入し、それと引換えに隣のこどもっちゃ！税務署で給与明細書をもらう。それを銀行で見せて会場内通貨Moccha！（モッチャ）を200Moccha！（200円分）もらう。

※ ②～④を6サイクル（時間帯）行う。

⑤ Moccha!を使って食べたり、買い物したりする。

Moccha!は、お仕事体験の受入店舗のほか、こどもフリーマーケットなどでも使える。当日だけではあるが、経済循環もねらいとしている。

⑥ はたらく車にコスプレして乗るなど。

パトカーや白バイ、消防車や救急車、自衛隊車両、バス、タクシーなどの展示もあり、試乗ができる。お仕事体験ができない幼児もお仕事気分を味わえる。

また11月23日は「いいファミリーの日」でもある。日ごろ商店街に来ることの少ない子どもや子育て世代が家族で商店街を回遊し、晩秋の1日を楽しみ過ごしている。

商店街の変遷

周南市は、平成15年4月21日、徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の2市2町が合併して誕生した、山口県の東南部に位置する人口14万9千人弱の市である。

旧徳山市の商店街は、臨海部に連なる石油化学コンビナート群を背景に、新幹線も停車するJR徳山駅の東に隣接する立地の良さも手伝って、高度成長期には近隣市町のみならず県外からも買物客が来る、県内屈指の商業集積地として発展してきた。

しかしながら、平成5年以降、隣接市や郊外に大型店やロードサイド店が次々と出店。一方で商店街内の大型店は撤退・閉鎖が相次ぎ、集客力が大きく低下した。

商店主、来街者ともに高齢化が進み、後継者不在のため廃業する店も見られるようになった。平成25年12月の調査では、商店街全体の空き店舗率が17.4%となっている。人通りも減少し、特に休日の商店街離れが顕著となっている。

逆発想から生まれた「こどもっちゃ！商店街」

「徳山夏まつり」、「のんた祭」、「周南冬のツリーまつり」など、商店街や周辺を歩

行者天国にして露店等が立ち並ぶ大規模イベントは、旧徳山市時代から、まちの活力の象徴である商店街を会場として行われてきた。しかし、近隣に他の商業集積地がなかった平成初期までと異なり、現在はイベントに来てもついでに買い物や食事をして帰るといった行動になりにくい。私もボランティアで、商店街で行われるイベントを何度も手伝ってきたが、「商店街の活性化につながっているのか。」と次第に疑問を感じるようになった。実際、店主からは「商店街で大きなイベントがあると、店の前をたくさんの人が通るけど、誰も店に入ってこない。イベントの日はまったく売れない。」という声をよく聞いた。

「商店街の活性化」とは、売れる店、魅力ある店の集合体となることである。そのためにはどのようなことをすればいいのか、自問自答が続いていたある日、ふと気が付いた。「お客様が店の中に入らざるを得ないイベント、買い物してもらえるイベントをすればいい。」「しかもそれが、日ごろ商店街に来ることのない子どもや家族だったら、どんな変化が起こるだろうか。」と。それが「こどもっちゃ！商店街」の始まりだった。

“実行”する実行委員会を

まず、このアイデアを徳山商店連合協同組合青年部のメンバーに持ちかけた。彼らも小学生の子どもを持つ親世代であり、賛同を得ることができた。また、全国商店街振興組合連合会から補助金をいただけることとなり、資金面のメドもついた。山口県長門市で行われている同様のイベント「ちびなが商店街」からノウハウをご教示いただくことができ、なんとなく開催できそうな素地ができた。

次は実行委員会の設置である。肩書や地位で委員を集めてもコトは動かない。一緒になって考え、動いてくれる“実行”委員を集めたかった。

実は、「こどもっちゃ！商店街」には、大きく3つのプロローグがある。

- ・ 商店街では「ちびっこたなばたま祭り」、「天使のツリー」など、主に幼稚園児・保育園児を対象としたイベントが毎年実施されており、子ども対象のイベント企画を受け容れやすかったこと。
- ・ 20～30歳代の若者たちが商店街を盛り上げようと開催したイベント「まちいこ！」、ハンドメイド雑貨とフードコートが並ぶ女性に大人気のマルシェイベント「マルシェ・デ・プルーズ」、採れたて新鮮野菜や果物、グルメなお店が集まる「は

なマルシェ」などの新たなイベントが、平成21年度から平成22年度にかけて商店街を舞台に開催され、“実行”する方々とのつながりがあったこと。

- ・平成14年度から毎年夏休みに行っている職業体験・ものづくり体験講座「しゅうなん子どもドリームスクール」の講師やスタッフとのつながりがあったこと。

「これらの事業を中心となって動かしている方となら、きっとコトが動く。」という漠然とした確信のもとお声がけをし、実行委員になっていただいた。結果的にこれが、成功の大きな要因だった。

混沌を経て「こどもっちゃ！商店街」へ

さて、実行委員会を始めたものの、誰も体験したことのない新しいイベントである。「商店街として何をしたいのか。」「無料駐車場のない商店街ではなく、郊外のスポーツセンターでやればよいのではないか。」というそもそも論から、「個店での販売体験と商店街で1日楽しめるイベントとの両立は困難ではないか。」までさまざまな意見が出た。各自がイメージしているものに違いもあったのだと思う。

そんな混沌とした時間に終止符を打ってくれたのは、「まちいこ！」に関わっていた青年のひと言だった。「このイベントは、例えて言えば、幕の内弁当を目指すんですか？それともハンバーグ弁当を目指すんですか？僕はハンバーグ弁当だと思います。ハンバーグというメインのおかずがあって、それに他のおかずも少しずつ入っている。そんなイメージではないですか？」これをきっかけに、まず「子どもや家族が商店街で1日楽しめるイベントとすること」を追求しようという流れができた。結果として、個店での販売体験と商店街で1日楽しめるイベントは両立でき、回を追うごとに成果が拡大している。一兎にしぼった結果、二兎、三兎を得たことになる。

もうひとつの転機は、イベント名の決定である。ホワイトボードいっぱいの案が出て、長時間議論した結果、ようやく決まったのが「こどもっちゃ！」だ。「～ちゃ」とは「～だよ」という意味の山口県の方言で、地域性のある名称となった。子どもが自己主張しているようでもあり、チャレンジ、チャンスといった意味も込められている。

貴重だったお母さん方の意見

それからは、開催日（第1回のみ2月26日開催）に向けて加速度がついていった。「お仕事体験をしている間、弟や妹が退屈しないよう、はたらく車のコーナーや移動

動物園も設けよう。」、「教育的要素として、朝礼であいさつ練習などをしてからお仕事場に移動するようにしよう。」、「子どもだけで移動すると迷子になるおそれがある。スタッフが引率するようにしよう。」などなど、課題が出ては解決し、課題が出ては解決し、の連続だった。

中でも大きかったのが、開催直前に行った、お母さん方へのヒアリングと、お仕事カードを取る「こどもっちゃ！ハローワーク」のリハーサルである。お子さんたちにも参加してもらい、お仕事場への引率までを現地で実際にやってみた。その結果、「文字ばかりのお仕事カードでは、何の仕事なのか子どもにわかりにくい。」「引率時の列が10m以上になる。」などの課題が見つかり、お仕事カードを入れる台紙にお仕事のイラストを入れたり、電車ごっこのようにロープで引率するようにしたり、と改善することができた。

いよいよ当日…

チラシは、開催約1週間前に、小学校を通じて市内の全小学生に配布した。お母さん方からは、『チラシを開いた途端、子どもたちが集まってきて、「ぼくはこの仕事がしたい！」、「わたしはこの仕事がしたい！」とすごい食いつきだった。』との話を伺っていた。

「大盛況になるかもしれない。」という期待半分、「やり残したことはないだろうか。」という不安半分で当日の朝がやってきた。冬晴れの絶好のイベント日和となった。

さすがに徹夜組はいなかったものの、準備途中の7時には最初の子どもがやってきた。しばらくすると、『駐車場から親子連れが続々と「こどもっちゃ！ハローワーク」に向かっている。』との情報が入る。想定以上の反響に、スタッフ自身があわててしまった。

第1回は、4サイクル分のお仕事カードを、9時からと11時からの2回に分けて配布することとしていたが、すでに9時の時点で100mもの長蛇の列ができ、11時からの列に並ぶ親子もいた。11時に向けて来場された方の中には、それを見て、お仕事体験をあきらめた方も多くおられ、大変申し訳なく思った。ただ、はたらく車や飲食のコーナーなどがあっただけのおかげで、そこで楽しく過ごしていただけたようである。

お仕事体験をした子どもと受入れ店舗・企業等の感想（抜粋）は次のとおり。

お仕事体験した子どものアンケートより

- ・ 仕事は大変だけど、売れたりすると楽しかった。
- ・ お店の人と話すのが楽しかった。
- ・ 声をはりあげて「いらっしゃいませ」と言ったら、いっぱいの人が来てくれたので、嬉しかったです。
- ・ 仕事が終わってほめられたので嬉しいです。
- ・ 仕事を選ぶときドキドキした。
- ・ 親切に教えてくれたことが嬉しかったし、売れて嬉しかった。
- ・ できると思ったけど、やってみると難しかった。
- ・ とても楽しくて、働いている人の気持ちがわかった。
- ・ 服屋のガラス拭きがすごく楽しかった。服をたたむのが難しかった。

受け入れた店舗・企業等のアンケートより

- ・ 販売体験に入ってくれた子どもたちが、45分間でどんどん積極的に声を出して前に出て行く様子にはびっくりした。
- ・ 子どもたちにとっては、すごく良い経験になったと思います。今までにないイベントだったので、今後も周南市のメインイベントになるよう、盛り上げてほしいと思います！
- ・ 子ども中心のイベントだったので、ご家族での参加が多く、来場者も多かったと思います。
- ・ お仕事体験ですが、子どもたちが楽しく行って嬉しかったです。子どもと一緒にする楽しさと難しさなどを経験でき、よかったです。
- ・ 子どもさんの販売体験から、大人が考えなければならない点がたくさんありました。我々も頑張って、街づくりに力を入れていきたいと思います。

経済面についても、「販売体験をしている子どもから親が買ってくれた。」「お仕事体験を終えた子どもがMoccha!を持って買いに来てくれた。」「お仕事体験した飲食店に家族でランチを食べに来てくれた。」などの効果があった。

こうして、当初のねらい以上の成果を上げ、第1回は盛会のうちに幕を閉じた。

進化し続ける「こどもっちゃ！商店街」

実行委員会には、スタート時からの「お約束」がいくつかある。「反省・改善をしっかり行う。」「毎年何か新しいことにチャレンジする。」というのもそのひとつ。

第1回の反省会では、お仕事体験のニーズに対してお仕事の数が少なかったことが挙がり、第2回ではお仕事の数の倍増を目指した。第1回で参加が少なかった商店街の店を中心に増やした。また、補助金への依存度を下げするため、参加者からお仕事体験1回につき500円いただくことにした。これも、お母さん方の「必ずお仕事体験できるのなら、ワンコインは払ってもよい。」という意見が、実行委員会の背中を押ししてくれた。

また、第2回以降の特長として、中高生のボランティア参加がある。学校も協力的で、中高生が小学生を引率したり、小学生のお世話をしたりする姿は、とても微笑ましい。

第3回からは、子どもの自発性や主体性、創造性を育む取組みとして、子どもが店舗の企画・運営をする「お店を作ろう」をスタートさせた。まだ小人数ではあるが、夏休み前後から集まって、提供する商品やサービスの選定、収支計算、仕入れ、看板等の制作、当日の店舗運営、反省会、と商売の一連の流れを数ヶ月かけて体験するものである。反省会の最後には、子どもたちが相談して、スタッフに対し、感謝の手紙をくれたり（第3回）、感謝パーティーに招待してくれたり（第4回）、という泣かせるサプライズもあった。

第4回からは、周南市青少年育成市民会議による高校生と小学生の企画・運営店舗「ぼくのみせ わたしのみせ」も行っている。

平成26年11月23日に行う第5回には、さまざまな団体から同時開催の希望をいただき、子どもを対象とするイベントのプラットフォームとなり始めている。

【過去4回の実績】

回	第1回	第2回	第3回	第4回
日時	平成23年 2月26日(土) 10時～15時	平成23年 11月23日(祝) 10時～15時	平成24年 11月23日(祝) 10時～15時30分	平成25年 11月23日(祝) 10時～15時30分
職業体験した 子どもの数	のべ346人	のべ817人	のべ866人	のべ830人
「楽しかった」と回答 した子どもの割合	99.42%	96.33%	99.08%	98.07%
職業等の数 (求人したもの)	38	70	94	84
協力事業者数 (無料体験含む)	48 (うち商店街:13)	76 (うち商店街:35)	102 (うち商店街:43)	92 (うち商店街:39)
当日ボランティア	15人 (うち中高生:0人)	64人 (うち中高生:34人)	85人 (うち中高生:40人)	96人 (うち中高生:52人)
Moccha! 流通額	205,800円	253,000円	304,700円	340,700円

子どもの笑顔と未来のために

ここまで書くと順風満帆のように思われるかもしれないが、課題はある。最大の課題は活動資金。毎年さまざまな団体から補助金をいただいて運営しているが、地元企業や市民からのご寄付などでまかなえるようになるのが理想である。

実行委員会としては、今後「こどもっちゃ!商店街」でのお仕事体験がきっかけとなって、その職業に就いた、あるいはその分野に進学したという子どもが出てきたら、最高の喜びである。また、参加した小学生が中高生になってボランティアとなり、中高生がやがて実行委員となってくれることを期待している。

子どもの笑顔は、大人の笑顔。子どもの未来は、周南市や日本の未来。

“おとなっちゃ(大人のチャレンジ)”は、まだまだ続く。